

7. 木材利用の促進

◆ 平成 16 年度の県内の木材受給については、外材比率は引き続き低下傾向にあるものの、需要量自体も 93 千 m³ と伸び悩み。

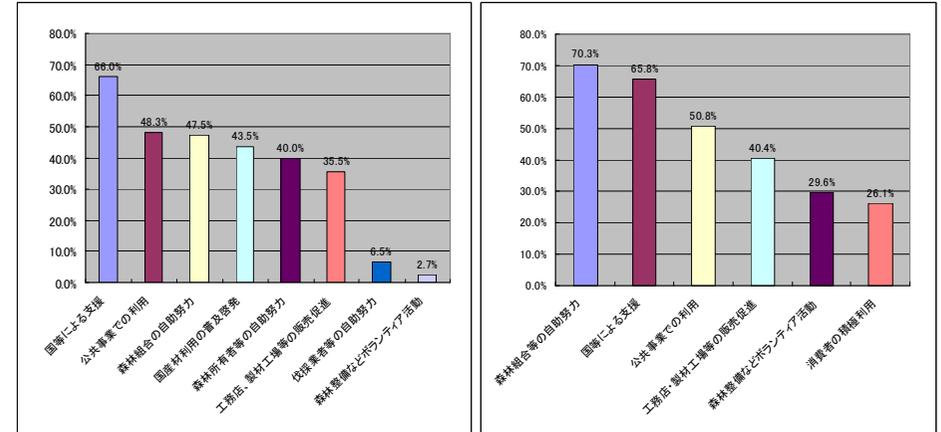
◆ このような中、林業者及び消費者は木材の循環利用を進めるに当たっては

- ① 森林所有者・組合、工務店等の自助努力
- ② 国等の支援
- ③ 公共事業等における利用
- ④ 国産材利用の普及啓発

等が重要との認識を有している。

◆ 市においては、木材利用推進のため公共施設等での県産材利用を行っており、近年建設した施設のうち把握可能なものだけでも、1,140m³以上（※木造軸組工法住宅（30 坪）に換算して約 60 軒分）の県産材を利用。

【木材の循環利用を進めるに当たって重要なこと】



※農林水産省（農林水産情報交流ネットワーク事業全国アンケート）
 左上は林業者の意識、右上は消費者の意識

【最近の県産材利用状況】

	箇所	使用樹種	使用量	主な施設
H11年度	1	唐松	255m ³	高根生涯学習センター
H12年度	3	唐松、赤松、杉、桧、栗	489m ³	八ヶ岳やまびこホール
H13年度	3	唐松、赤松、杉、桧	125m ³	三世代交流館
H14年度	1	唐松、赤松、杉	96m ³	泉小学校木の家交流ホール
H15年度	2	赤松、杉	104m ³	武川多目的屋内運動施設
H16年度	3	唐松	64m ³	明野中学校
H18年度	1	唐松	8m ³	小淵沢中学校

※ 使用数量など把握不可能な施設は記載しなかった。

- ◆ その中には、山梨県建築文化賞等を受賞し大手自動車メーカーの
公告撮影に使用されたり、市有林から伐採したアカマツ丸太を使用
したものなどPR性の高いものも存在。
- ◆ また、県においても拠点施設となる「木の国サイト」の整備
や「甲斐の木活用アドバイザー」の認定による県産材住宅建築への
支援等を行っている。
- ◆ 今後は、これら施策や身近な木材利用情報等を有機的に結び
つけ情報共有・発信ができるよう、ホームページの活用や木材
利用マップの作成等を検討していく必要。

【県産材を利用した市公共施設の一例】



※左：ハヶ岳やまびこホール、中央：武川多目的屋内運動施設、右：長坂中学校部室

【甲斐の木アドバイザー養成研修の様子】



※山梨県HPより